

子供から学ぶ

私には、「尊敬し続けている先輩」がいます。

初任から6年間、同じ学年を担当したその先輩は、とても温かくユーモアがある反面、厳しい先生でした。授業はとても上手で、やんちゃな子、暴れん坊も、その先生の手にかかると、あっという間に引き込まれていってしまう魅力をおもちでしたが、その先生も数年前に校長を退職され、今は音楽専科としていくつかの小学校で、孫のような子供たちと授業をなさっておられます。

今でもお会いすると、現在教えている子供たちの話をされますが、子供の話をされるときの先生は、あの頃と同じで実に楽しそうなのです。

私が敢えて「尊敬し続けている」と言うのは、子供の前に立つ指導者として、常に子供から学ぼうとする姿勢こそ、教師として一番大切にしたいと思っていることであり、それを先生は今も身をもって体現しておられるからです。

授業に集中せず、おしゃべりをしている子供がいるとします。「授業に一生懸命に取り組まない子供たちが悪い。」と切り捨ててしまうことは簡単なことです。しかし、そんな子供の姿を見て、「提示した教材の何が悪いのか。」

「発問はどうあるべきだったのか。」と自問自答したらどうでしょう。清掃活動中にほうきを振り回している子供には、「なぜ、そうじをしないのか。」

「どういう心が働いたら、一生懸命にそうじをしようと自ら動き出すのか。」と考えたらどうでしょう。

子供の姿をしっかりと受け止め、子供から学ぼうとする教師は、自らも成長していけるように思います。

教頭になって子供と接する機会が少なくなりましたが、たった数時間の出張授業で子供たちの反応が悪くて落ち込んでみたり、校内巡視の途中で出会った子供の言動に心揺さぶられたりしながら、今日も子供から学んでいます。